

シーラントに関する注意/警告

- **Giant** チューブレスシステムは、適切な空気の保持のためのタイヤシーラントを使用する必要があります。
- 使用前に微粒子が液体中に分散できるようにするため、シーラントを振ってください。
- **Giant**、**Stan's NoTubes** が提供するシーラント、または、**Stan's NoTubes** により製造されたシーラントのみを使用してください。他のブランドは、**Giant** チューブレスシステムでは試験されておらず、保証が無効になる可能性があります。
- シーラントは **CO2** に接触すると悪化する恐れがあります。チューブレスタイヤを膨らませるために、**CO2** を使用しないでください。緊急時に **CO2** カートリッジを使用した場合は、次の乗車の前に新しいシーラントと交換してください。
- 必ず乗車前にタイヤの空気圧を確認してください。

シーラントの取り付け

1. 使用しているタイヤおよびリムが、チューブレス互換であることを確認します。内部チューブのないチューブ式タイヤを使用しないでください。空気圧の突然の喪失、または、リムからタイヤが外れる可能性があります。
2. メーカーの指示に従ってチューブレスの使用のためのリムを準備します。
3. メーカーの指示に従ってチューブレス互換のあるタイヤを取り付けます。
4. 付属の工具を使用して、バルブ本体からバルブコアを取り外します。
5. 使用前に微粒子が液体中に分散できるようにするため、シーラントを振ってください。
6. 開いたバルブ本体を通して、シーラントをチューブレス車輪とタイヤシステムに取り付けます。推奨される量は、サイズに依存しますが、**30~60mL** です。
7. 付属の工具を使って、バルブ本体にバルブコアを再取り付けします。バルブコアが所定に位置にしっかりと締め付けられていることを確認します。
8. 車輪およびタイヤの最小最大圧力で再膨張させます。
9. 必要に応じて、手で膨張したチューブレスシステムを回転、または、優しく振って、ケーシング内のシーラントを拡散させます。これにより、完全な被覆とシステムの最高性能を保証します。
10. メーカーの指示に従って自転車に車輪を再取り付けし、タイヤを通常の乗車時圧力まで膨張させ、バルブを閉じ、乗車します。

シーラントに関する FAQ

リムから古いシーラントを取り除く方法は？

- タイヤまたはリムテープを交換する際、柔らかく湿ったタオルを使って、古いシーラントを拭き取ります。タイヤの正しい取り付けやセットアップを妨げる可能性のある固形物をすべて取り除いてください。

タイヤのシーラントはどのくらいもちますか？

- シーラントは、2~6ヶ月持ちます。しかし、これに影響を与える多くの要因があります：地域の温度、天候および湿度の状態、乗車頻度、自転車の保管場所（涼しいところが好ましい）、タイヤケーシングの厚み、シーラントが既にシールしているパンクの数など。
- 新しいシーラントを適用した日付をメモし、6ヶ月ごとにシーラントの状態を確認することをお勧めします。

タイヤシーラントはどの程度大きな穴を修理しますか？

- 実験室の試験では、直径3mmのパンクまでは使用中に容易にシールできることを示しています。シーラントがパンク穴から出続ける場合、パンク穴が下になる（6時の向き）ようにタイヤを回転させます。これは、シーラントがタイヤに穴を埋めるのに役立ちます。
- パンクが大きすぎる場合には、タイヤは、システムが空気を保持している場合でも、再度、最大圧力まで膨張することができない可能性があります。
- 穴が大きく最小膨張圧力を達成出来ない場合は、緊急修理として、チューブレスバルブを取り外し、内部チューブを再取り付けしてください。内部チューブを取り付ける前に、タイヤをパンクさせたものを取り除き、膨張した内部チューブが完全にタイヤケーシングに含まれることを確認してください。内部チューブがケーシング内に含まれない場合は、乗車前にタイヤパッチまたはブートを使用して、穴を修理してください。

シーラントが乾燥した状態で、チューブレスシステムを使用してもOKですか？

- システムは、乾燥したシーラントにより、多くの空気を保持しますが、パンクシール性は残りません。システムがタイヤに記載される最小膨張圧力を維持できない場合は、自転車に乗るべきではないことが推奨されます。

タイヤ圧力が指定された最小圧力以下である場合は、自転車に乗らないでください。必要な量のシーラントを追加し、再膨張させてから、乗車してください。